

## 国内株式相場の急落と今後の見通し

国内株式相場は本日大幅に下落し、28日大引け時点で東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価は各々、前日比 58.59ポイント、同 515.80円、下落率はそれぞれ3.23%、2.85%に達しております。

本日の株価下落の引き金となったのは、昨日の中国株式市場で上海総合指数が前日比8.8%の急落となったことをきっかけに欧米の株式相場も大幅安となり、国内株式相場もこの流れを引き継いだためと見込んでいます。この背景として、最近の世界同時株高に伴い株式相場に対する高値警戒感が台頭していたこと、昨年後半以降の国際商品市場から株式市場への急速な資金シフトに対して足下一部巻き戻しが起きていること、円キャリー取引(円を借りて外貨資産に投資する取引)の逆流によって円が急騰したこと、1月の米国耐久消費財受注が市場見通しを大きく下回るなど米国景気に対する不透明感が拡大したこと、などの要因が挙げられます。

上記の通り、本日の国内株式相場の下落は海外株下落の影響が大きいことから、海外市場が落ち着きを取り戻すまでは、波乱含みの展開が続くと想定しています。しかしながら、中国経済は今後も引き続き高成長が維持されるとみられ、米国の景気減速も住宅市場に底打ちの兆しが見えるなど年後半以降の景気再加速の態勢を整えつつあります。加えて、国内景気も足下外需の伸び鈍化の影響などにより一時的な踊り場を迎える懸念はあるものの、米国の景気回復を受けて年後半以降は拡大を見込んでおり、企業業績は07年度も2ケタ増益見通しであることなどから、先行きのファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は堅調に推移すると考えています。

以上のことから、国内株式相場は、短期的には波乱含みで推移する可能性はあるものの、下値余地は限定的で、今後は年後半以降の景気再加速を織り込みながら徐々に下値を切り上げていくものと考えています。こうした点から今回のように株価がファンダメンタルズとかい離し、需給要因で大きく下落した局面は日本株投資の好機と考えております。

TOPIX週次データ



以上